



JICAME 通信

JICA カメルーン事務所
2013年12月号 第17号

★★★12月の予定 ★★★

【事業・事務所の動き】

- ★ 12月1日～7日：中小企業振興システム構築プロジェクト詳細設計策定調査
- ★ 12月7日～14日：ボランティア PC分野巡回指導調査
- ★ 12月21日～12月28日：金坂企画調査員経理指導

【目次】

1. 活動終了にそえて：
「こんなところに日本人」前出 JV
2. COMIFAC COP19 報告（佐藤専門家）

活動終了にそえて

～こんなところに。。。日本人～

JV（村落普及） 前出 なお子 隊員

「カメルーンと言えば・・・サッカー？」赴任前は正直この程度の認識しかなかったカメルーン。2年3か月の活動期間を経て、今や第2の故郷ともいふべき任地バングラップをもうすぐ去らなければならない。果たして私はこの村に何か残せたのだろうか。。。

村でのメイン活動は「換金作物の導入」。換金作物として取り組んできたのは、キノコ栽培と養蜂。それぞれセミナーを開催したが、その後、実際に実践してくれる農家がいなかったのが問題であった。初期投資不足、これが農家を苦しめていた。そこでやる気のある農民グループを2組選び、初期投資を支援。現在キノ



コ栽培・養蜂とも活動を開始している。

また、別の換金作物として可能性があるのがNERICA米である。昨年は冷温な気候の影響で収穫に至らなかったが、今年は専門家のアドバイスの元、栽培時期をずらして、再チャレンジ。

果たして私はこの村に何か残せたのだろうか。。。どれもこれも、約2年間の歳月を経て、ようやく動き始めたばかり。これらが今後しっかり根付いてくれるのか、正直不安が残る。それでも、長期にわたり一緒に働いてくださったカウンターパート・村人・そして村の王様が「また戻ってきなさい。その時は、村中にきのこやお米があるからね。蜂蜜もね」と話して



下さるのが、心に響く。

何の専門も持たない外国人を「トンタ（村の娘）」として迎え、接して下さったバングラップの王様・村人と生活を共にできた私は、本当に幸せだと思う。この村へは、いつか、また・・・。

COMIFAC -COP19 サイドイベント開催

中部アフリカ森林協会 (COMIFAC) 佐藤 向陽 専門家

様々な要因によって大気に放出される二酸化炭素が温暖化を招き、早魃や大雨といった地気球規模での異常気象を引き起こしていることは皆さんご存知のことかと思えます。その二酸化炭素の吸収源として近年さらに注目が集まっているのが、中部アフリカにも広大に広がる「森林」です。気候変動枠組条約においても、この森林を如何にして守り、維持していくかは主要議題となっており、本条約の年一回の総会である気候変動枠組条約締約国会議 (COP) でも毎回白熱した議論が続けられています。今回、11月にポーランド・ワルシャワで行われた COP19 に COMIFAC カウンターパートと共に参加し、COMIFAC 主催のサイドイベントを開催しました。

この時期のワルシャワは最高気温 5 度程度。中部アフリカに慣れた体には厳しい寒さでしたが、カメルーンとは時差がなかったせいかカウンターパートも意外と元気にはしていました。



スタジアムのメインエントランス

COP19 の会場となったのは 2012 年に完成したばかりの収容人数 5 万人を誇るワルシャワ国立競技場。普段は天然芝のピッチがある場所には特設会場が設けられ、その他の場所も会議ルームや各国代表団スペースとなり、スタジアム全体が COP19 仕様となっていました。スタジアムの外は寒かったですが、中に入ると一転、参加者の熱気が満ちており時折汗ばむこともありました。

サイドイベントの持ち時間は 90 分間のため、COMIFAC 加盟国内で行われているプロジェクトを 15 分ずつ 4 つ発表し、残りを質疑応答に充てる構成で臨みました。そのうちの 1 つの発表では、現在ガボンとコンゴ民主共和国 (以下、コンゴ民) で JICA が実施している森林モニタリングシステム構築プロジェクトの成果を、他の 1 つで日本の環境プログラム無償によりカメルーンで実施中の森林インベントリープロジェクトの成果を報告しました。発表を行った各プロジェクトのカウンターパートも若干緊張気味ではありましたが、持ち時間をオーバーすることなくしっかりとこなしていました。

会場には、日本人関係者、COMIFAC 加盟国関係者、他ドナーといった様々な立場の方々約 100 名が参加し大盛況！

発表後の質疑応答ではリベリアやニジェールといった西アフリカ圏の参加者からの質問もあり、とても有意義な意見交換や情報共有を行うことが出来ました。



JICA 案件の発表
(ガボン)



JICA 案件の発表
(コンゴ民)



環プロメンバーの発表
(カメルーン)

また、先述のガボン、コンゴ民及びカメルーンの発表に加え、司会を務めた COMIFAC 次長からも、改めて JICA や日本政府による協力について謝意が述べられ、我々の活動を広くアピールすることが出来ました。準備の段階では色々と苦勞することもありましたが、カウンターパートと共に本サイドイベントを成功裏に終えることができ、ほっと一息つくことができました。今後も COMIFAC 支援を通して、コンゴ盆地の森林保全に貢献していけるよう業務を行っていこうと思います。

編集・発行人 矢部 優慈郎

JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先 : ca_oso_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ : <http://www.jica.go.jp/cameroon/office/index.html>